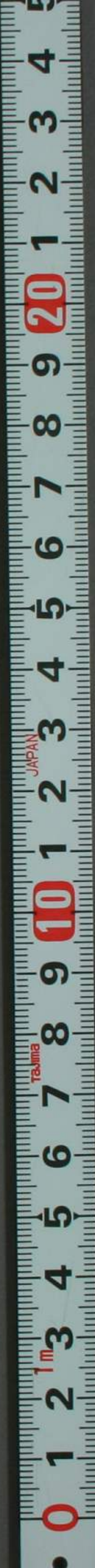


西游旅談

全

ル 3
1691





特
ル 3
1691



西遊後

余は漢壯年より画を嗜み故に山水松竹花
 好む其妙活を画に作す尤も山水より堂々肥
 肥なるもの多し其を決して戊申秋夏に
 遊歴するより二年を餘たり故に諸書の
 撰選の跡も亦多し其の仕官又ハ
 産書あり其諸由を著さんとも多し其
 遊歴するより此の書画せんとも多し其
 遊歴するより此の書画せんとも多し其
 遊歴するより此の書画せんとも多し其

此の國ハ皆州水戸の人長玄環の刻あり
 余も毛洞板の法に勝る小図あり

品川
 集

海に其比の如くありん

天明戊申四月廿二日芝門を發して金川の驛に至り

青島何れあり右の方山に登り此の地は陸奥の又河

細の社右田畑を以て一帯松とて少くもありて

北と視て南を海と見え海の中の海の出る乃弁天の

社あり其向ふ北毛本目と見え東の方には海は西の

方富嶽にありて其の佳景あり

少田ありて巨州熱海と七里路山中にしてたの方を

海に大津神ありて是より北山中に大石あり

石を仰出し伊豆の御新とてまた戸田村あり

加賀川
河を以て

古肥古名
嘉永三年

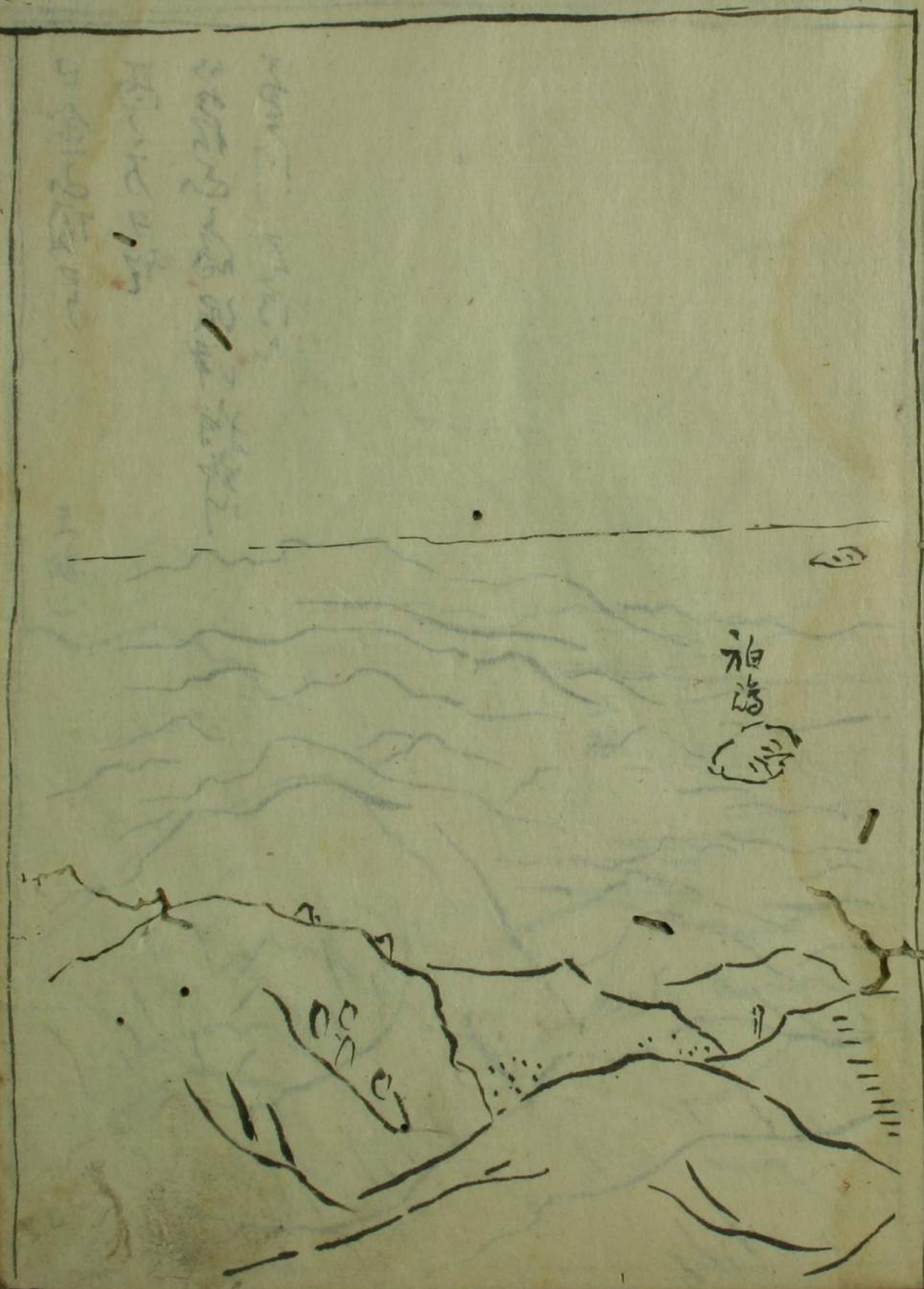
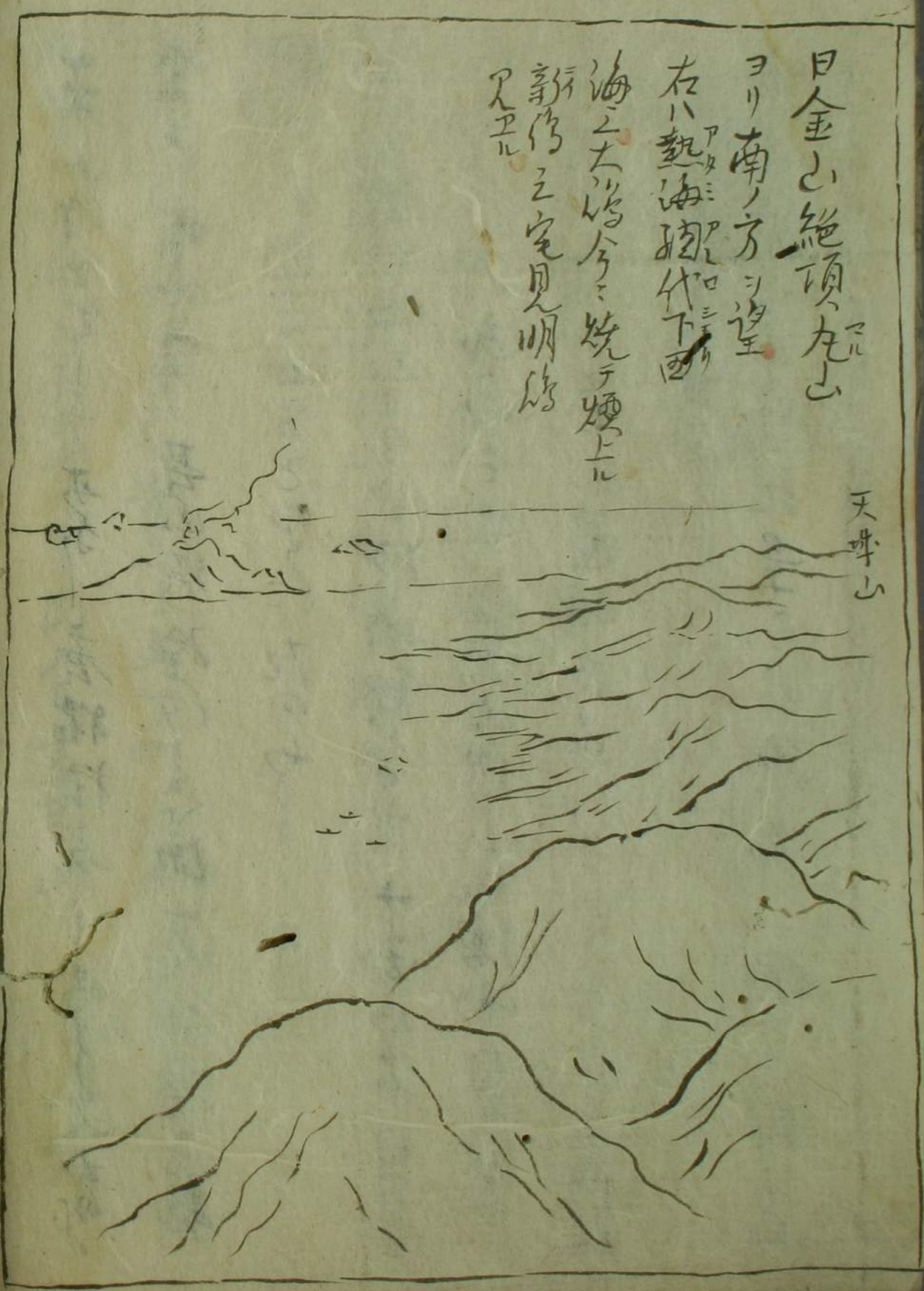
まこととして熱海に至る今井より又方の園中より湯
泉涌出る。こゝを以てら女湯と無湯にして居あり
此一行總て西に流るあり又海中より涌出るあり
其より七八所ある方山流をこして伊豆持取の社あり
其山下流をこし流あり。御能湯あり此湯ハ痛と居
らるるなり。鉄氣ありて之を冷めりといふを持取の湯
と云ふ。

日金山あり熱海より登ると五十町頂に地蔵堂又六の
洞佛の像あり之家ありて肉合堂ありあり。海山行々
茅小竹と云ふ。一あり。唐檜根あり。あり。又あり
登ると山あり其山終終行々流る入て通る細
絶頂に到ると四方と云ふ。たのけ。

伊豆園の各部日金山頂所觀を者。十町あり山自子至
卯相模園あり。安府あり上總中下總あり。自辰至申
其園所誌あり。五箇嶋及遠江あり。自酉至亥駿河
あり。信濃園あり。甲斐あり。
諸上四方ありて絶景あり。其遠景と画くと能く工
なり。不徒。

日金山絶頂丸山
 コリ南ノ方ニ望
 右ハ熱海阿波下
 海ニ大島今ノ焼テ煙上ル
 新島之宅見明島
 見ル

天母山



新島之宅見明島
 阿波下
 熱海

新島
 之宅
 見明島



天海心

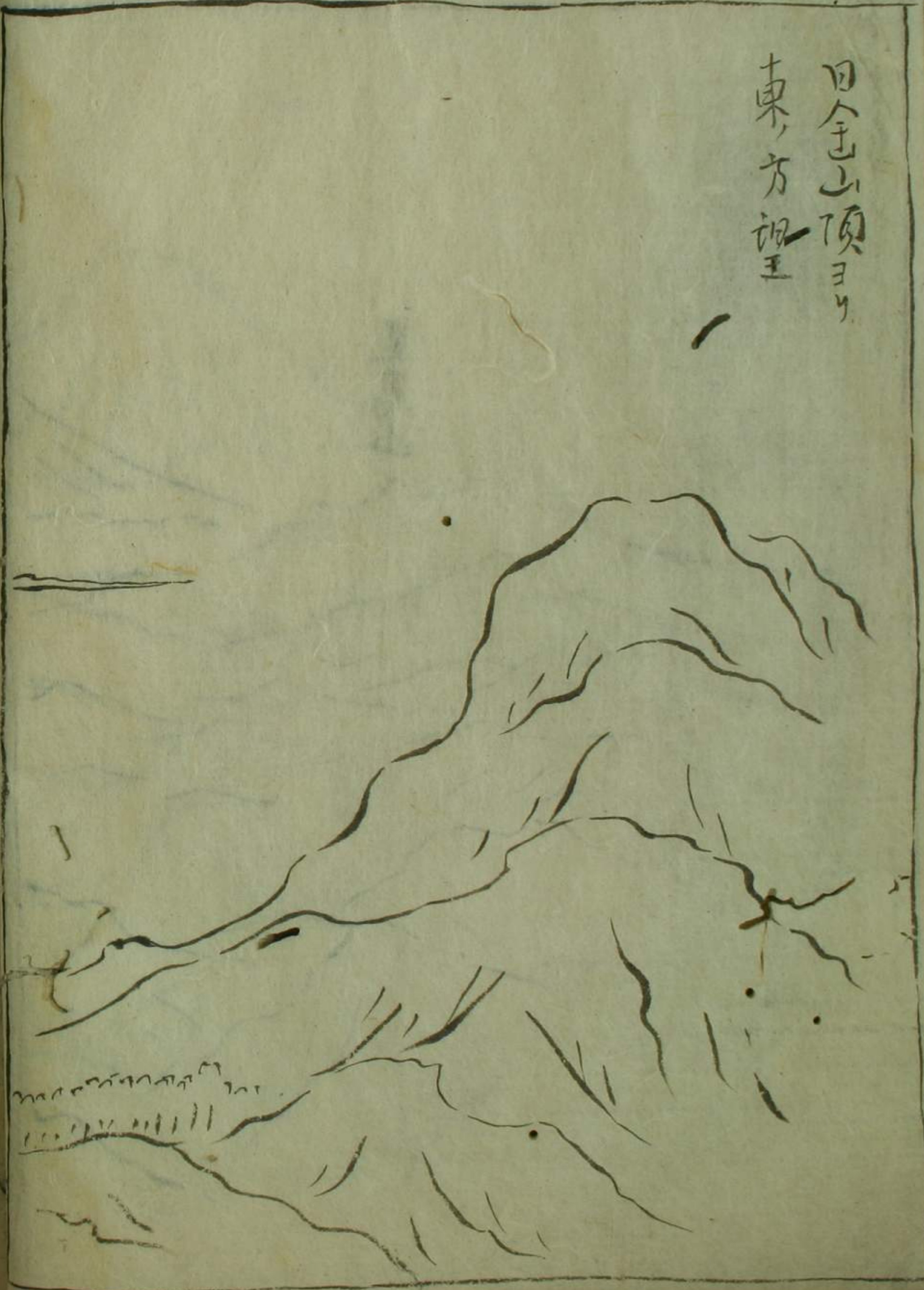
三松

日金山頂より
西の方を記
し、松山、三松、天海、
天海川、天海川





日金山頂ヨリ
東方祖王



總上別房

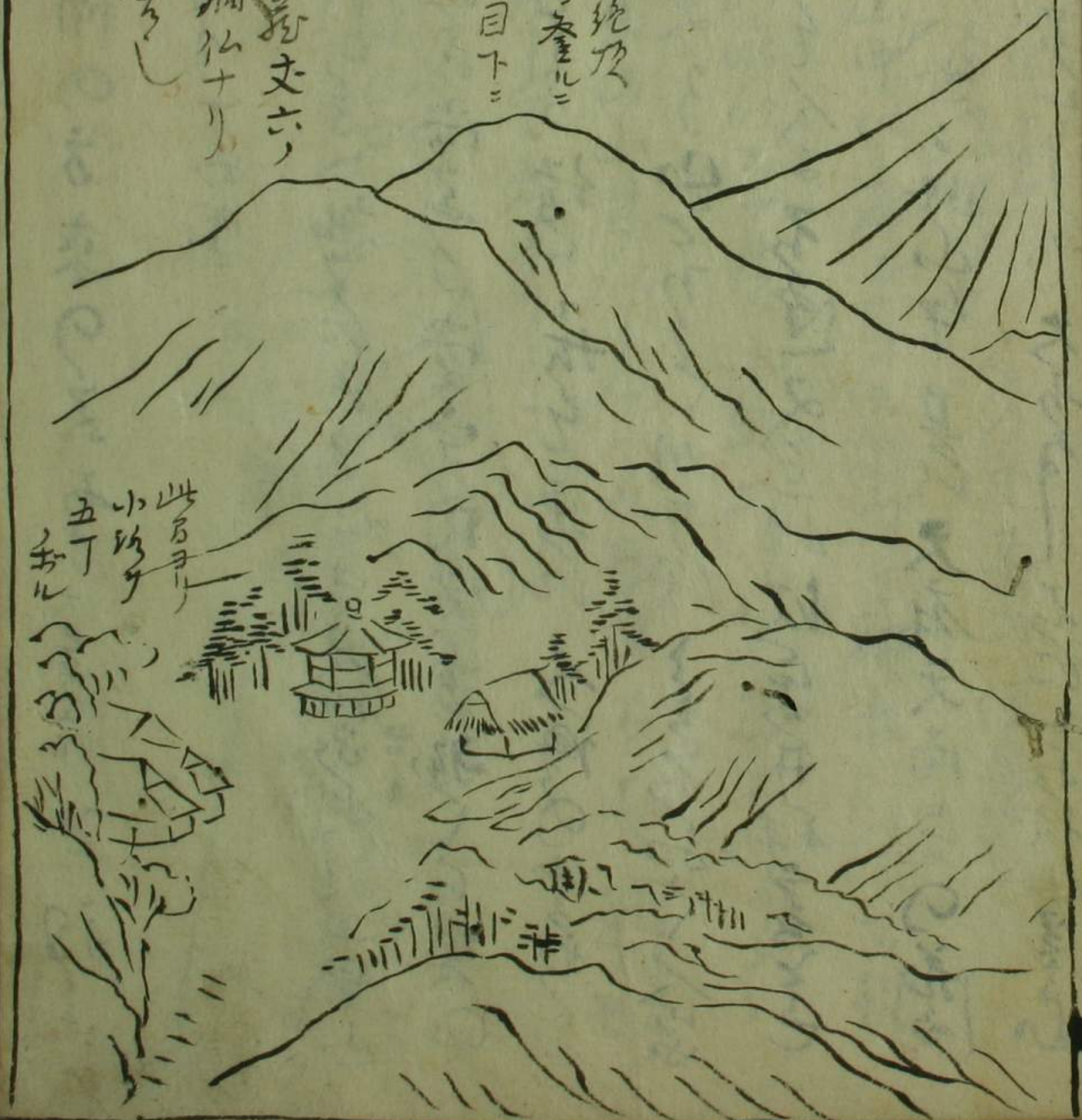


江崎
真霧

熱海ヨリ日金山地蔵堂迄
 五十一丁 釜山初丁
 甘イノ川糸ト云々ヨリ
 写止山ヲ見ル時
 五月七日頂
 雪如流



日金山
 九山ニ登ルニ
 此山目下ニ
 三丁
 六角ノ堂ハ地蔵堂ニ
 世傳ニシテ銅仙ナリ
 茅屋傳舎シ



此山ヨリ
 小坊チ
 五丁
 五丁
 五丁

温泉より西南の方來のふあり大己貴余と祠
其より大橋ありす大己貴余

海より之流のふ入越たあり山中人家形一甲山
に在る峠の地を堂あり堂守肉を食平丸し白髪
の髪一人とさる傳へて更なる人の流の響き
深山送客しまり山をりく川井澤とさるおく人家
ありとさるうつそ人よ不逢又此れは安井村とさる
て之を山行とす此山中其は天麻天南星の花
又里のり山に茅せしと大ありし石に山おれとさる

た天城山 此山五里十に里人家 又此て山の佳景也

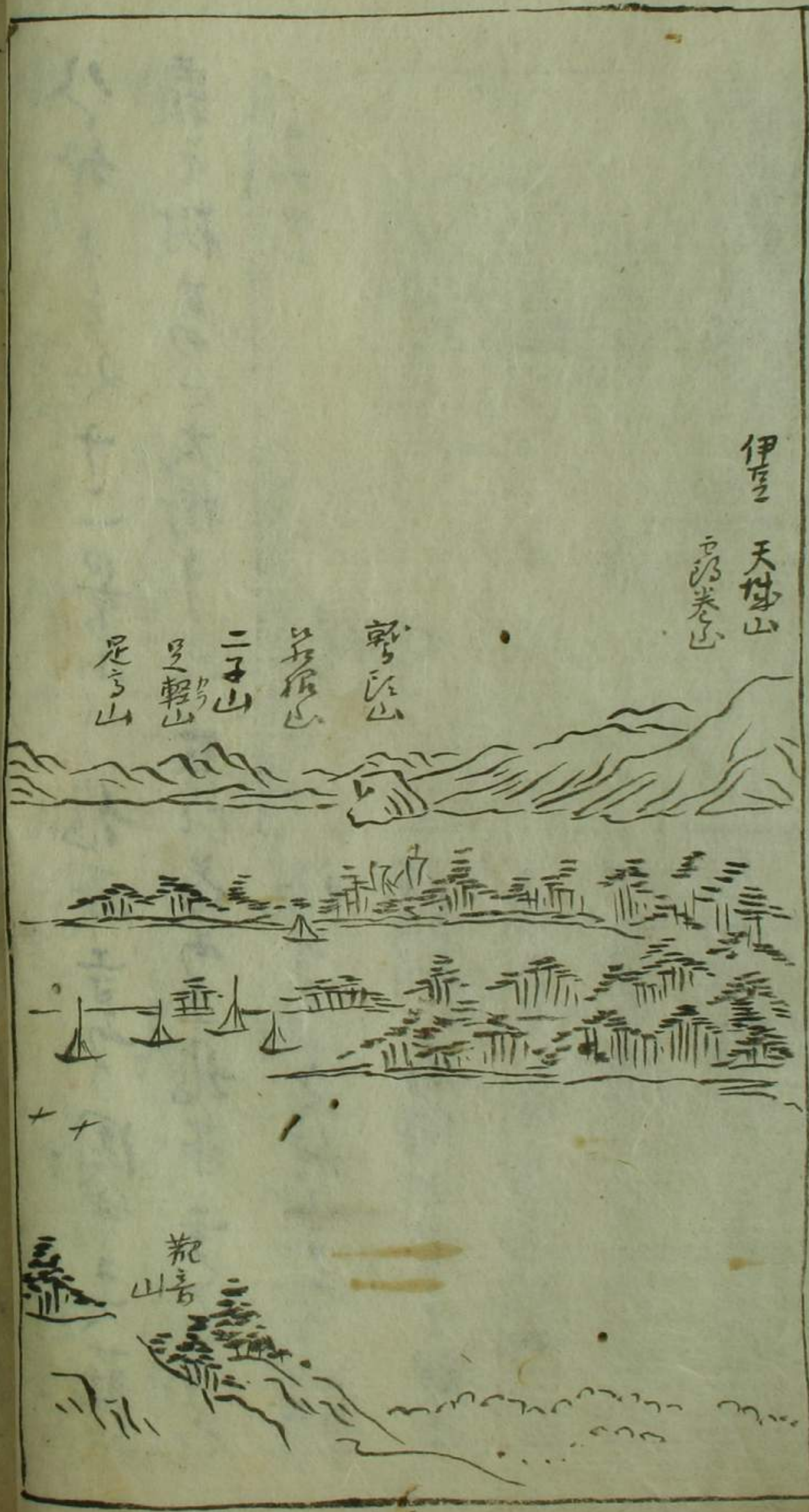
江尻より一里餘山中に庵ありとさるあり庵系川流て往
来く出る其河原に石を立山とさる

流く流し 是の山林に人あり石布料とさる
とさる紙を製して衣料とさる

庵系山の
婦人



山系山行記 卷之九 温泉



足利山 新山 二子山 伊豆天城山 石部巻山 天城山
 昔雪舟支那の遊り富士と國と右より
 之標の洲出くたし海をさし通しきりてる國也

送州掛川より秋葉山に入山道二里とて川を渡り又
一里の川を越へて村宿あり一宿あり茶味 又より一里とて
と三里此より川を四十里とて越へてありとてより林原を二里
より林原のあり端雪坂とてあり端をちあり又より小夫路の
舟をくありお掛川とてく山を登り大木あり松林の
あり山を高く林原より山に登りありあり唐洞の
病あり竅に金剛嶺山門の最勝園に堂あり大尊心也
あり堂南向ありとて観音結寺南向指院寺ハ様々不
秋をあり寺とてとてありとてありとてありとてありとてあり
乃方好とありとてありとてありとてありとてありとてあり
半里とてありとてありとてありとてありとてありとてあり
とてありとてありとてありとてありとてありとてありとてあり
乃深山ありとて指指多ありとてありとてありとてありとてあり
此道海に山林道とて人傳寂寥とてありとてありとてありとてあり
あり婦人伝ありとてありとてありとてありとてありとてありとてあり
海とてありとてありとてありとてありとてありとてありとてありとてあり
とてありとてありとてありとてありとてありとてありとてありとてあり
村此よりありとてありとてありとてありとてありとてありとてありとてあり

世村

山に曲居て心の中
居るあり河二水あり
山に作て口ト雖猪猪
身は徳也とありとこ
故に畑の巡り垣と結園
谷の山あり猪猪
山ありあり四七言
山に此世村
居るの山に山あり
夜更猪猪下ありと
園に交月あり



鳳来寺の山
山にありあり



勢州日永村

ツツク踊

文句

あしうち

のこ踊

あしうち ツツク

塔う渡で田を植て

一廿のせ

二廿のれ



新うねり

おまのま、富士の心

酒は造る泉原

あうま海うみ

馬でやうま

山原よ車

あうま

テテテツク西の山うま

まうあてあうま

あうまあうまあうま

あうまあうまあうま

踊は山

エイトコ



七月十六日永より三里餘ヲ孤地トシテ至リ出ル方
 一万石の鏡地あり市街一所餘あり東の方十餘町
 以テ河原あり河原一所餘ありあり雨降ハ漲リ
 深ハ是より三里湯の山あり其流の流あり

此の湯の山に以テ孤地より二里餘一里以テ京あり
 山和少世多ク白眞桔梗女弁花萩花甚多ク夫より溪河
 之邊迄と山中に入リ皆砂山トシテ砂路トシテ石を野

大石寒道迄又半里以テ溪流石を飛テ流るなり
 流下ハ其の流市街多ク流水あり因テ石を飛渡



溪河此流を渡り

大石大山あり室を
 人家を以テ垣ノ家と作
 二ノ十形松見羊に湯室
 あり湯ハ其の如ク大石以
 湯を以テ浴する者多ク
 相山皆嶮峻にして大石少
 石穀不生此より古あり
 少石あり

大石の流を以テ少石とあり



此石青湯あり

岩多葉形岩に似てせし
大キナ如



ウツクサ

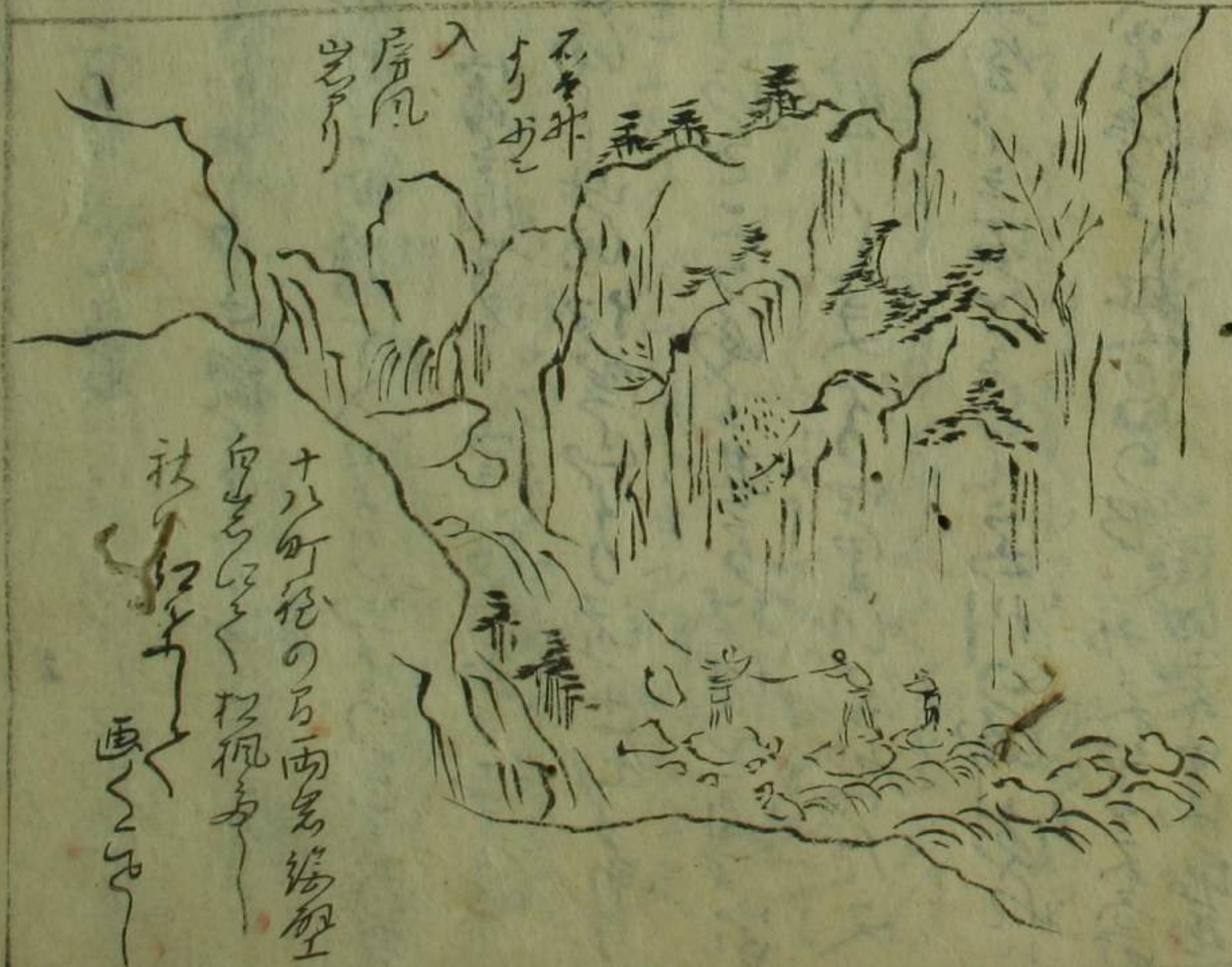
シロバナ

此亦夏月涼しく虫と不生蚊あり九月ハ雪深く
 行旅のついでに旅籠主人に語りて其の山に
 今も四甲餘ありむ人の家あり谷のて度とて六段狼狽
 多し

七月廿七日四日市祝訪明神の祭にて近石の者を見物
 に出づあり山々も妙なり又花も妙なり
 此祭も亦に慶しく東方の風あり婦人髪の方より香
 け流るに似て多あり之に詣婦女頭に帽子をかき
 五月ハ銘とて野にけし物も多し此色は山に
 多し

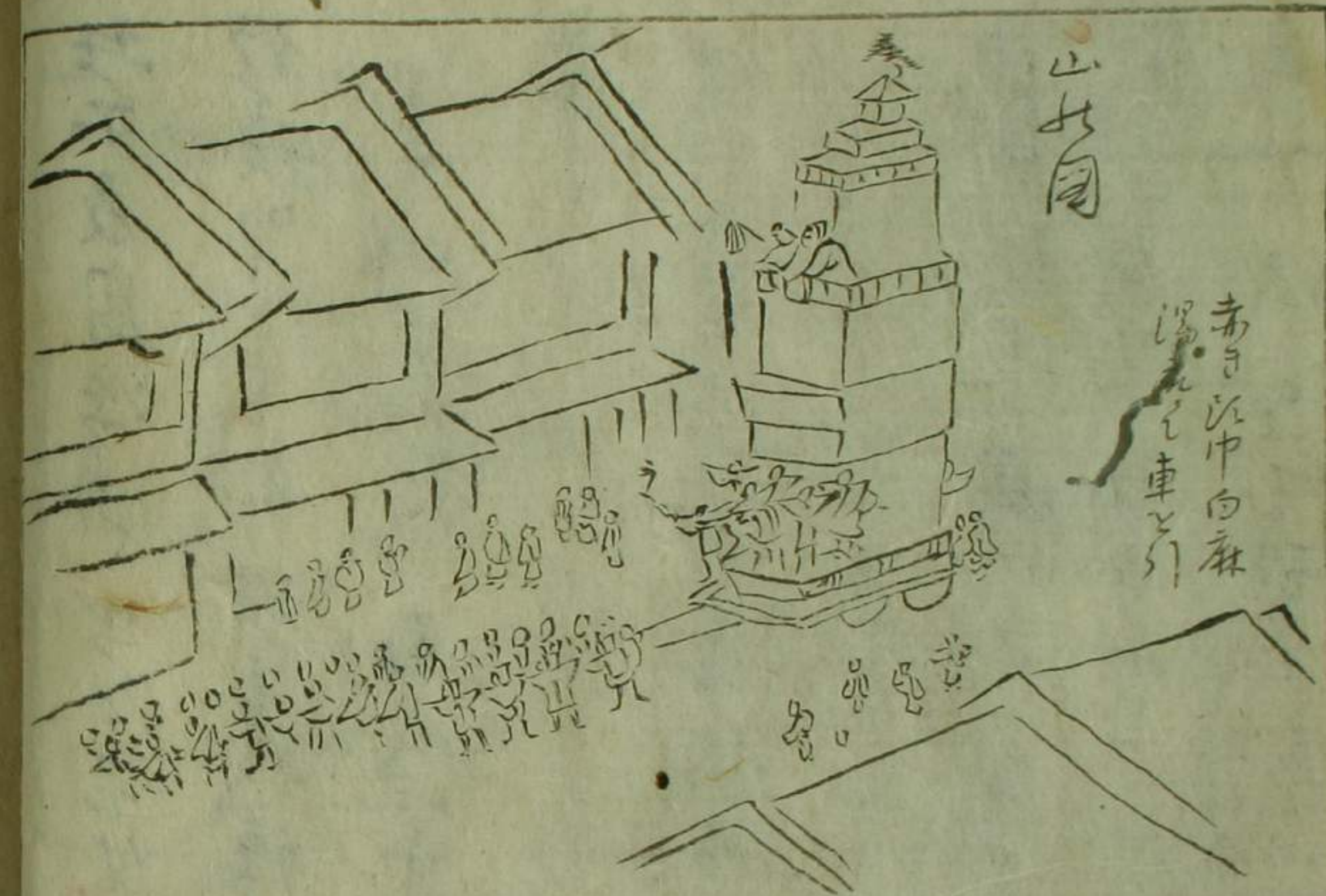


勢州の東にあり
白石山に入る
石を井とて杉文
直之とて
白石



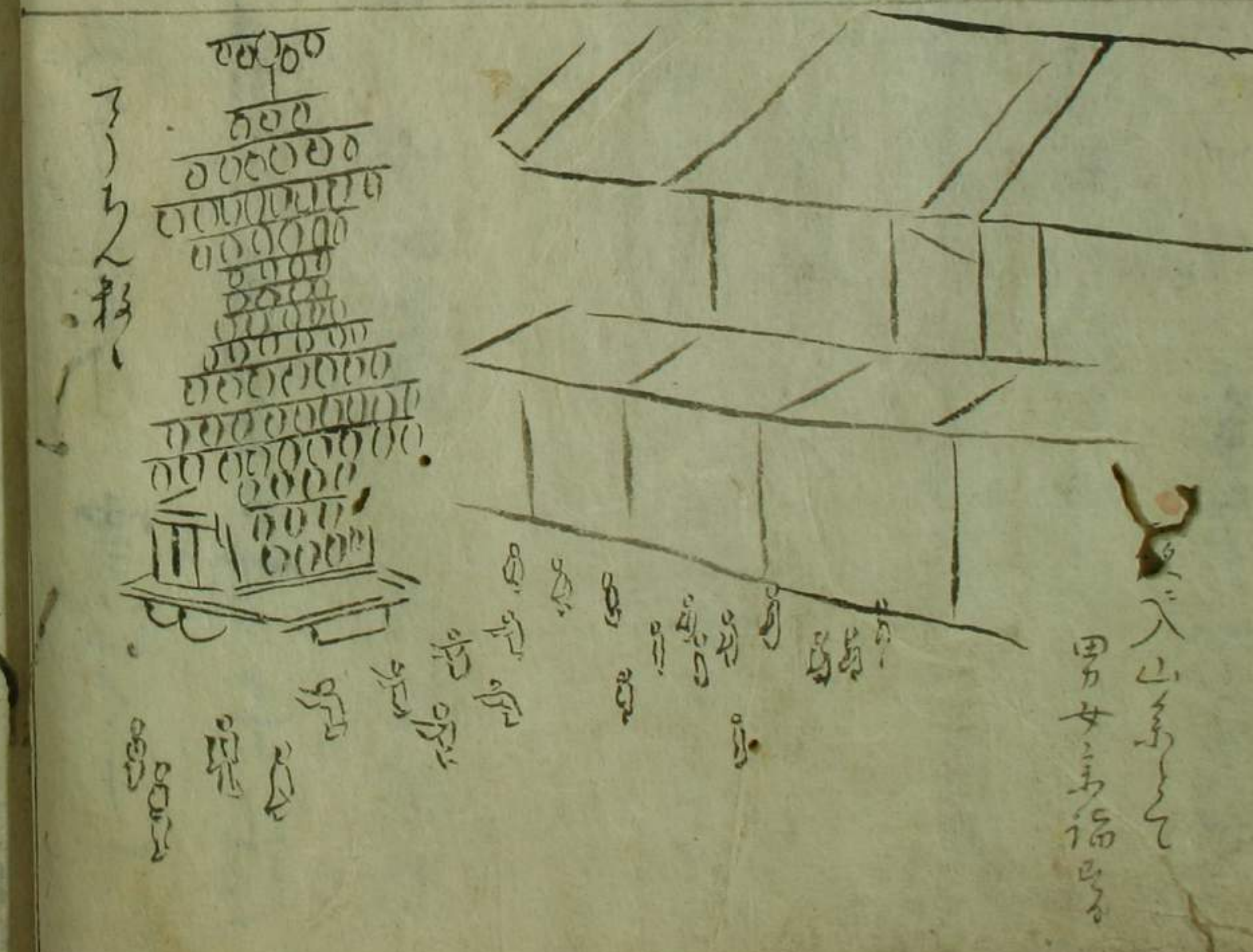
石を井
杉文
直之
白石

十ヶ所迄の石両名迄登
白石山とて杉文
直之とて
白石



山女園

赤白の中
湯に車と
石



石を井
杉文
直之
白石

入山系とて
男女共福と
石



八月二日水戸より
 水戸と出く白子観多き事とて津の
 至後橋より町邊へ入口より出たつ出た八里
 あり富商多し雪津の町雪津
 河毎海此の伊豆山より流す出あり
 夫より河をこら海に其の松坂と通る家
 後々津所しまより河里のくあつた又
 ねあふ御とまの事とて之川の御海に
 山の家邊より野田の地外まはり又高野
 田ま中の地



二月浦

六月二日浦はまの山田とて山中
 入りて半甲川ありあり御多し二見
 あり夫より其浦とて後々津とて
 一村入りて川あり又小山とて
 諸道より出く池の浦とて我津の事とて
 ねあふ入る志麻田より御浦より入る
 家多し市街ありとて甲ありお十所
 一里あり此所に西玉造の船を入出く
 周系の方に至る日津山あり方とて

池の浦
七ツ流るる
東の山



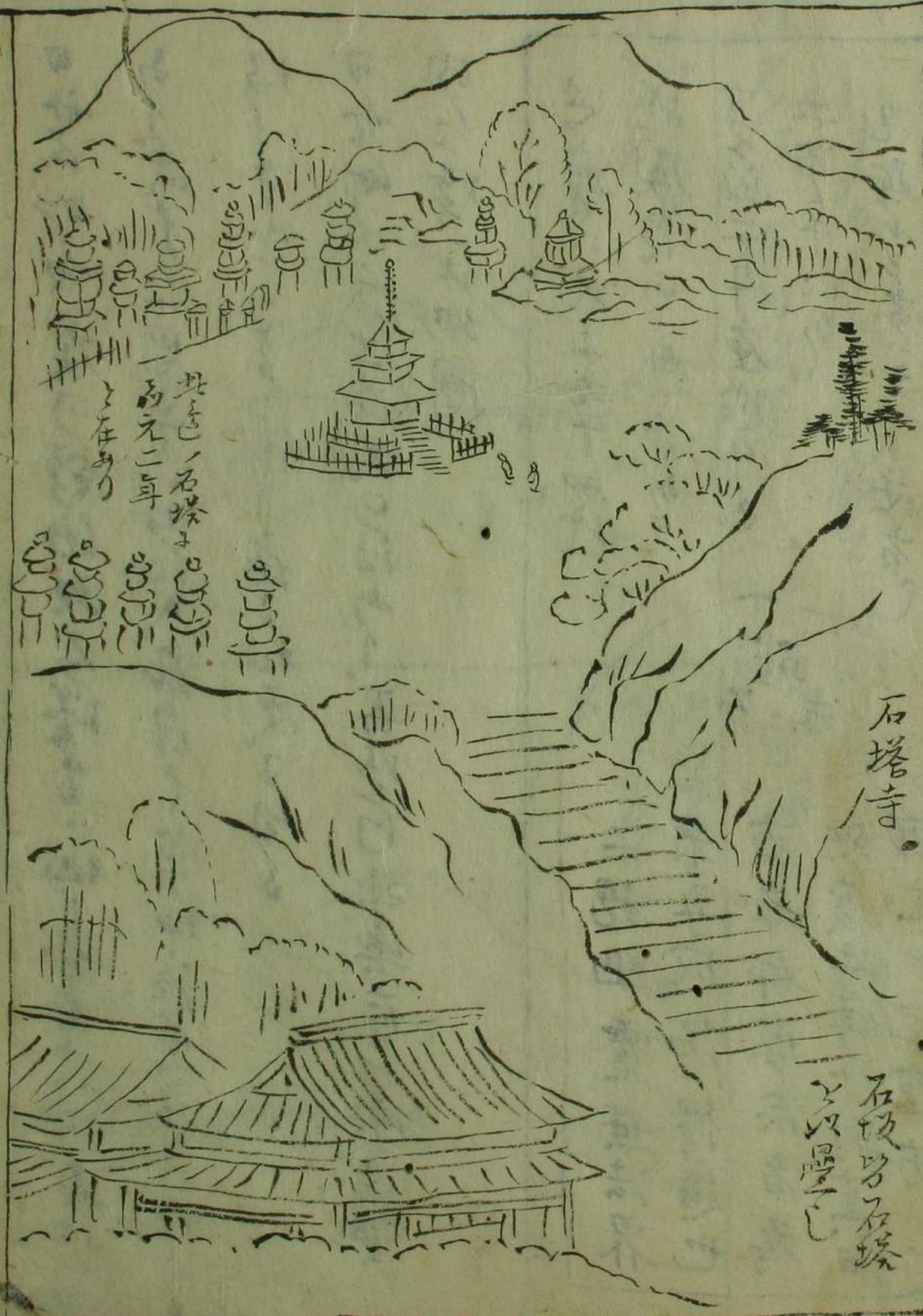
舟の四より山ありありと
見ゆ

七田天氣舒く相とあしく舟に乗り流るれば早佳水の
 舟の浦に流るる舟の浦に流るる舟の浦に流るる舟の浦に流るる
 二尺の山とたはるる又一里流るる二尺の山とたはるる又一里流るる

山中



八月廿日江州土山の野村にあり
 舟入山中少川をこり越又大所二つ
 舟り長と山にあり二里流るる掛



此塔は石塔也
 寛元二年
 在り

石塔寺

石塔寺石塔
 石塔寺

此塔は二里乾の方面に在りて其塔の
 土氏の曰天に於て和を以て築一而平
 の月氏に於て和を以て築一而平の塔
 と稱す十万余年を以て築一而平の塔
 と稱す十万余年を以て築一而平の塔
 と稱す十万余年を以て築一而平の塔

此塔は二丈五尺余

文

此塔は昔ハ山崩とありて此塔を以て
 石塔と云ふなり此塔を以て
 石塔と云ふなり此塔を以て
 石塔と云ふなり此塔を以て



日世に加ふる侯の領地此ら塔もハ仙居侯八千石此鏡池
 ありまより一里をく山に入敷月々草中鈴虫鳴く啼き
 鳴きまじくとも漸く夜を初更に鳴る
 日世何よりとて綿向の社あり其後日非奥庫北南の疆の
 内は境在如圖

延慶八人王九十四代
 花園院の二年号あり
 寛政二年庚戌年也
 五百石にあり
 九點あり者ハ文字疑者也

此
 赤

二親幽靈無法界
 采五成仰得道也
 方卒都婆志者為
 延慶三年十月十六日
 願主日記重方

八月十六日石山寺に宿し月夜無く山湖水を廻り野田
 松をく其の佳景也

ウコイ規
 ハスト云々

石山寺の
 移り居る



野田の移り
 居るの景也



十七日大坂江より船に乗る。こゝ津のありより西北を望むに
大坂九分なる。

高津の文よりなる図

こゝ図の
西より
本郷より



芝居川

木津川

大坂天神宮より
天満宮を名かり
団陣尼由
向ふ所の方
と此の節
淀川に續く



天王寺石れきき古唐洞れ
額あり少世に風のりも蹟
と云ふまきれ縁あり其外は
事なきや
淀水観音のりききとありしり
堀通るるきき煙し浮世を
云遊て亭あり

東福地
西極楽
南法華
北天竺
心天竺

住吉
堀あり
西の方
海あり



大坂より舟にきき庫あり十里
あり广耶山下ききあり庫中富
商多し法皇の乃築治あり補正
成り
家あり和田の岬行幸の松あり
此白天氣能流寺敷盛の石路あり

敷盛の墳
御子の路あり
下北より

惣きり九人余



外に文字あり

新子
溪



源寺
新子
二所入

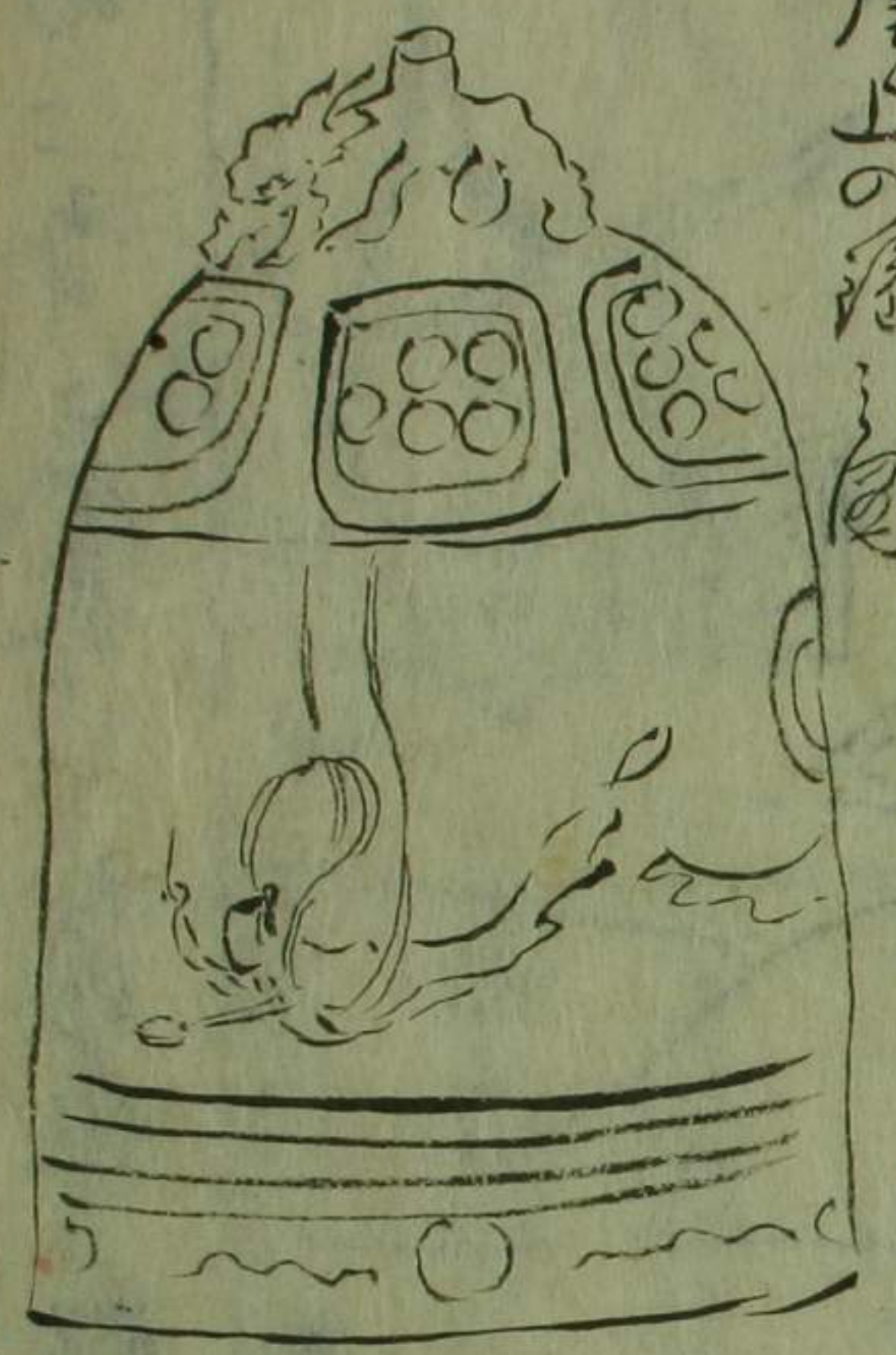


仲哀天王の陵を
傍にありまより乗
水山の止千毎と云
西あり陵の地あり
今新子に溪松偃て
乃中第一の佳景
ありまより明なる
至り人々のああり
門に入碑あり寛文

四年甲辰明名城の日向の源信之建

あり新子川より深きたのふに入屋上の障子何松
あり松枯くも松を植へり屋の上の障子何松
模様天人樂器と銘所あり

屋上の障子



住吉の文又石の室
之のありと云ふ山にけり
此の石の山に大石あり
一石を切出せし石あり
多松の松は天満の境



市の内より
北の天主
の山

まより豆湯と云譯に坐市町の
北の天主より河を流す即ち
北の市中を流す下の子と云
有るより河は二里あり片
より北の山中に入流す
至る数回河は城内に大石の
壱を川に二色の丸あり其好も火
災ありと云ふの家ありあり
五日朝塔渡りまよと名物と云ふ



石室殿

石

石

石

石

山
一石
の石



石の松

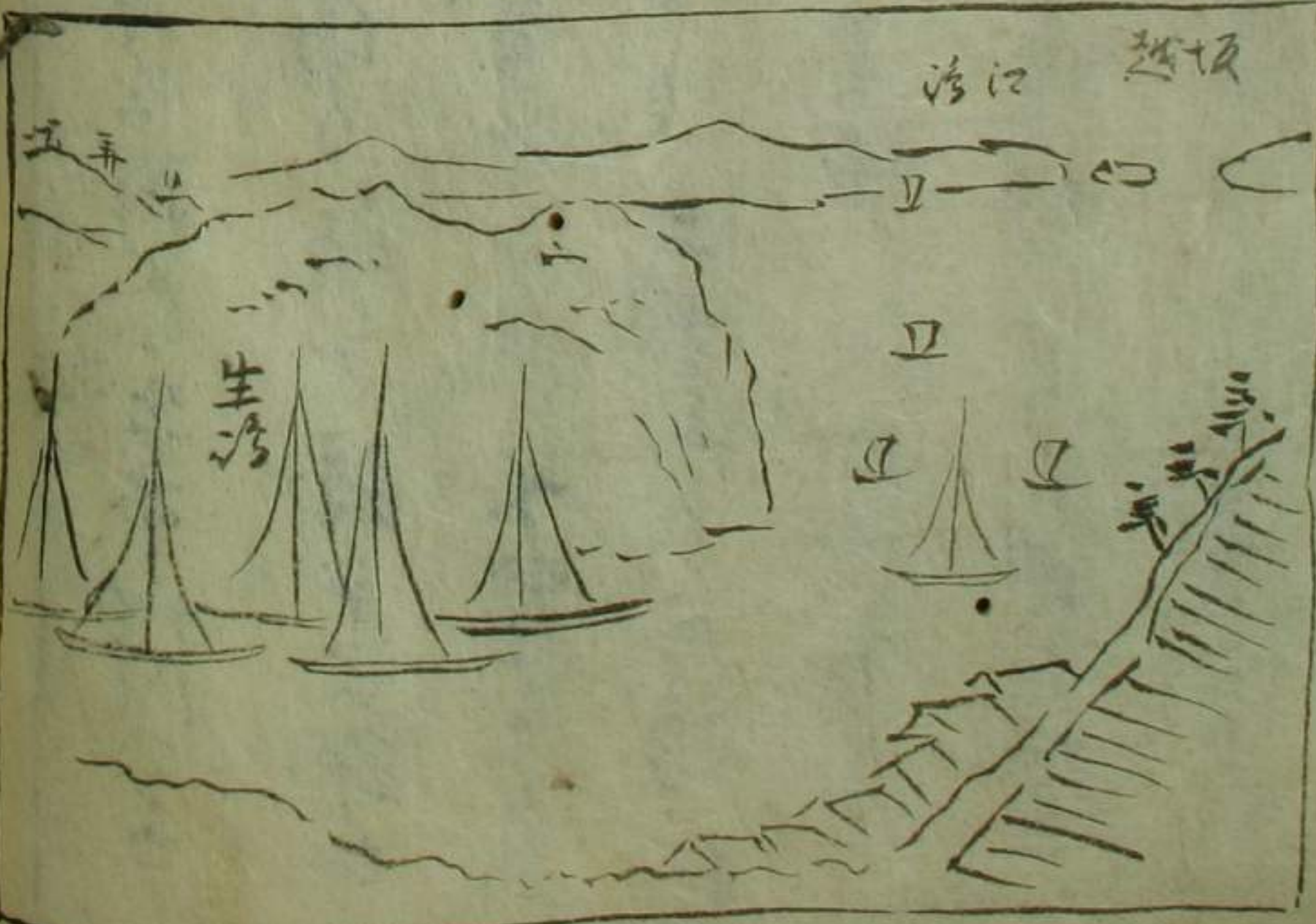
石の松

石の松

石の松

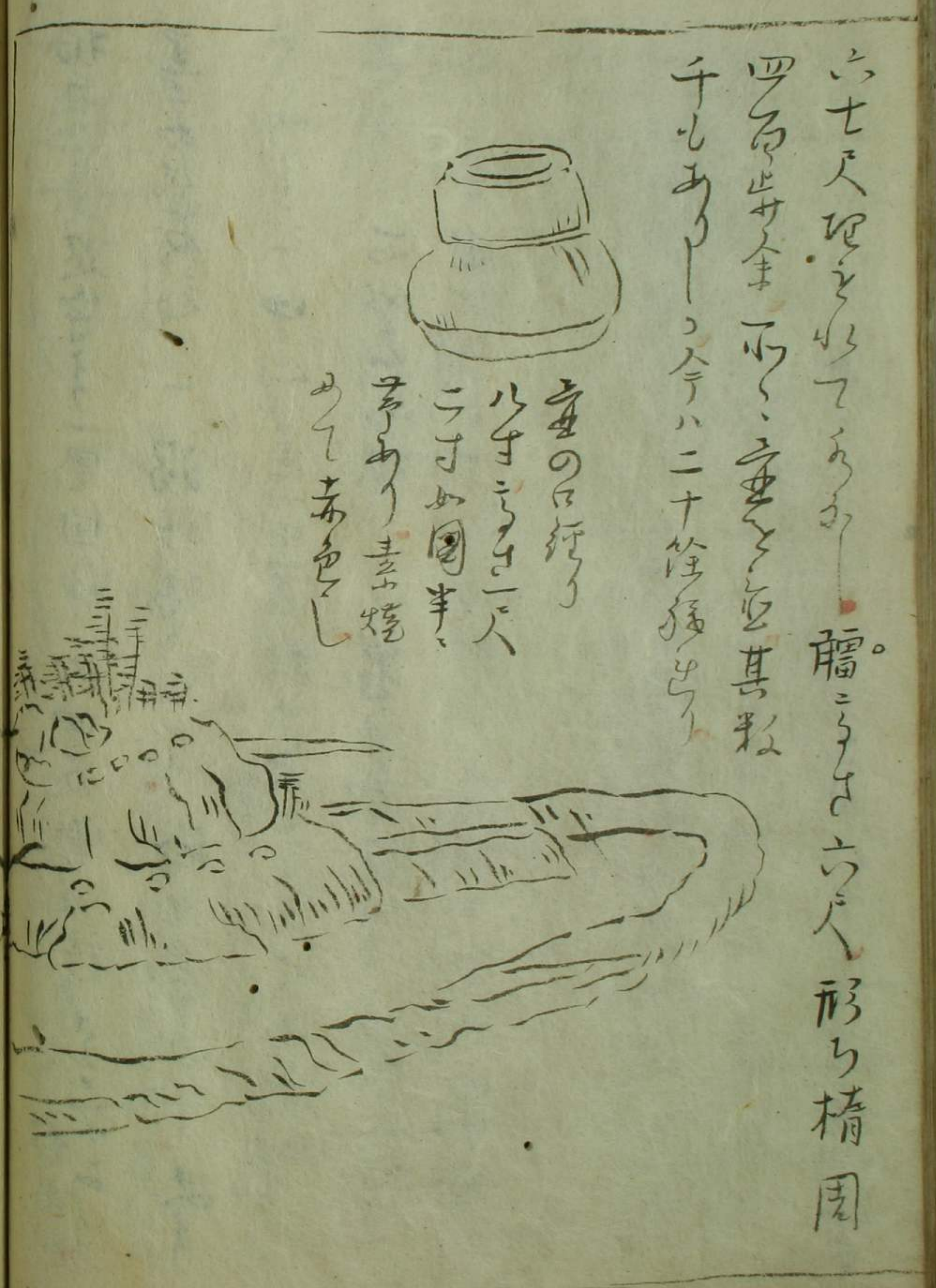
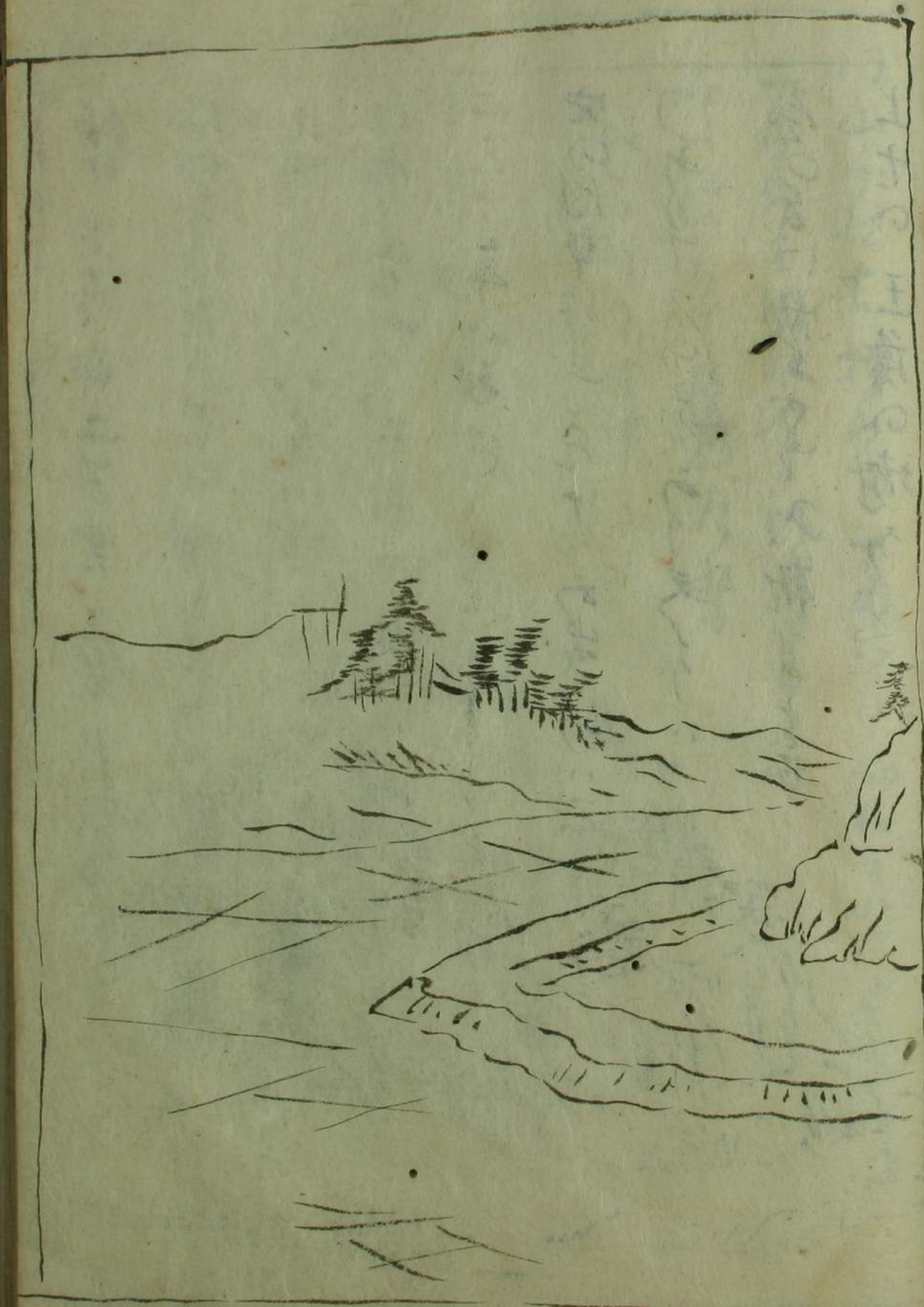
河にありて其の大河あり。松千歳と云ふ大木あり。

明神の多き社古大社境海濱波濤中流連々風皇佳
 夫より舟と出づ之甲波越々云云に至新嘉市中人亦多
 山の上は大鳥多ありぬらて海を望む
 八日赤穂と北へく山に入ると甲は
 なるく山ありて山は林りて松林也
 此とて八山山越々片上りて山頂に至
 此より海あり伊勢村焼物仕
 備物ありと云ふ大流あり雨山競
 てるは其山の腰に石を積りて穴あり



上に草むすして穴のめきあり此者雨には在
 樵者にとて同穴とて者し此は又の時ゆらや急
 者あり此山ありて此山より又ハありて四方あり
 塚大石を墨塚ゆら多し
 餘所にて觀音堂並に寺あり流ハ其子より又七カ所也
 又山に入山石に滴りて流りて大跡と云ふあり夫より
 四甲子とて雲山ハあり城下町にて富人多し此は夜あり
 十カ所山を登りて二甲切の中の時あり山を下りて水に
 江在吉備津のまあり海中の方吉備津のまの釜

此は伊勢村の
 古墳の跡あり
 夫より十

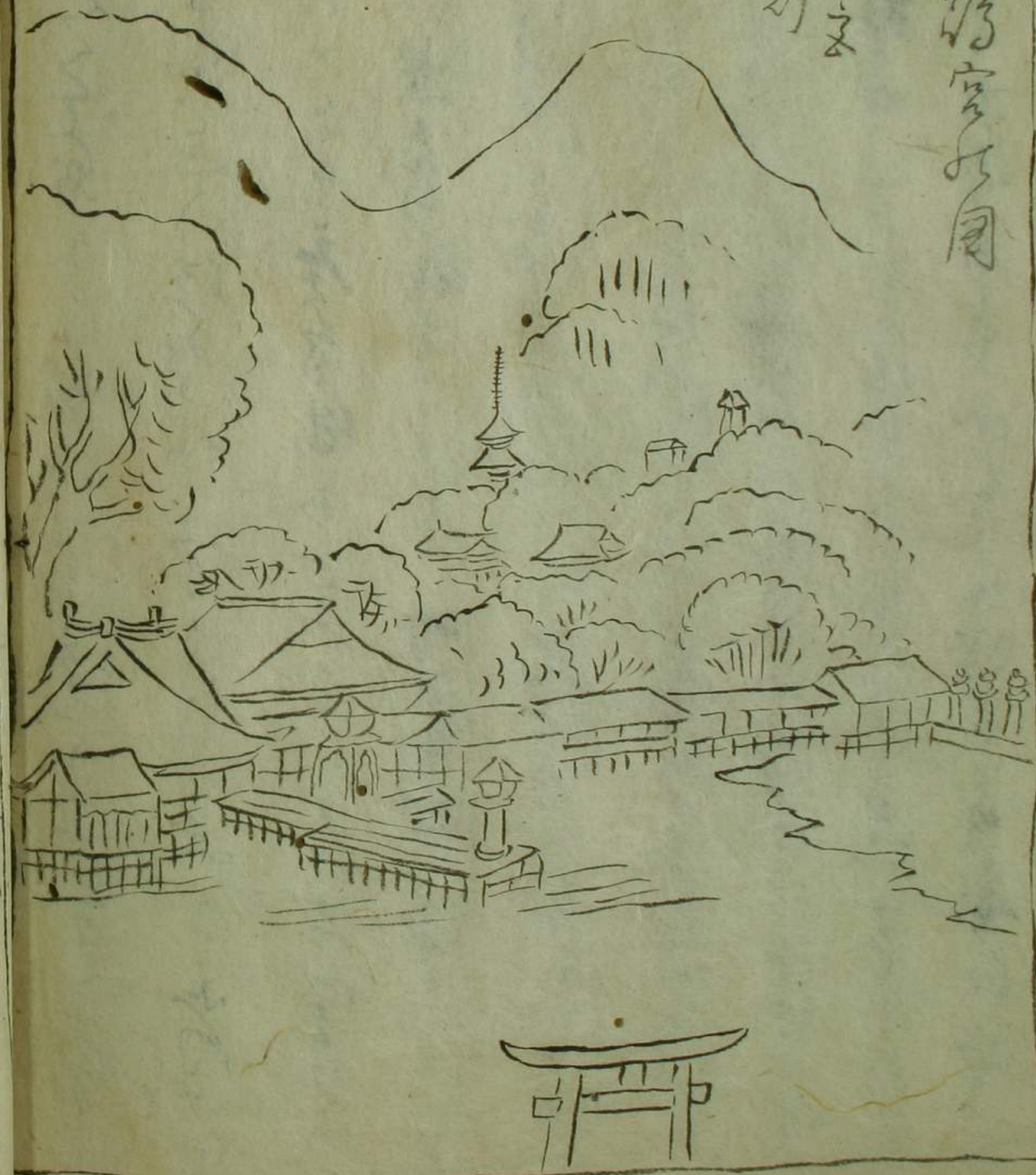


壺の口徑
 少くとも一尺
 二寸如圓半
 寸あり素山
 あり赤色し

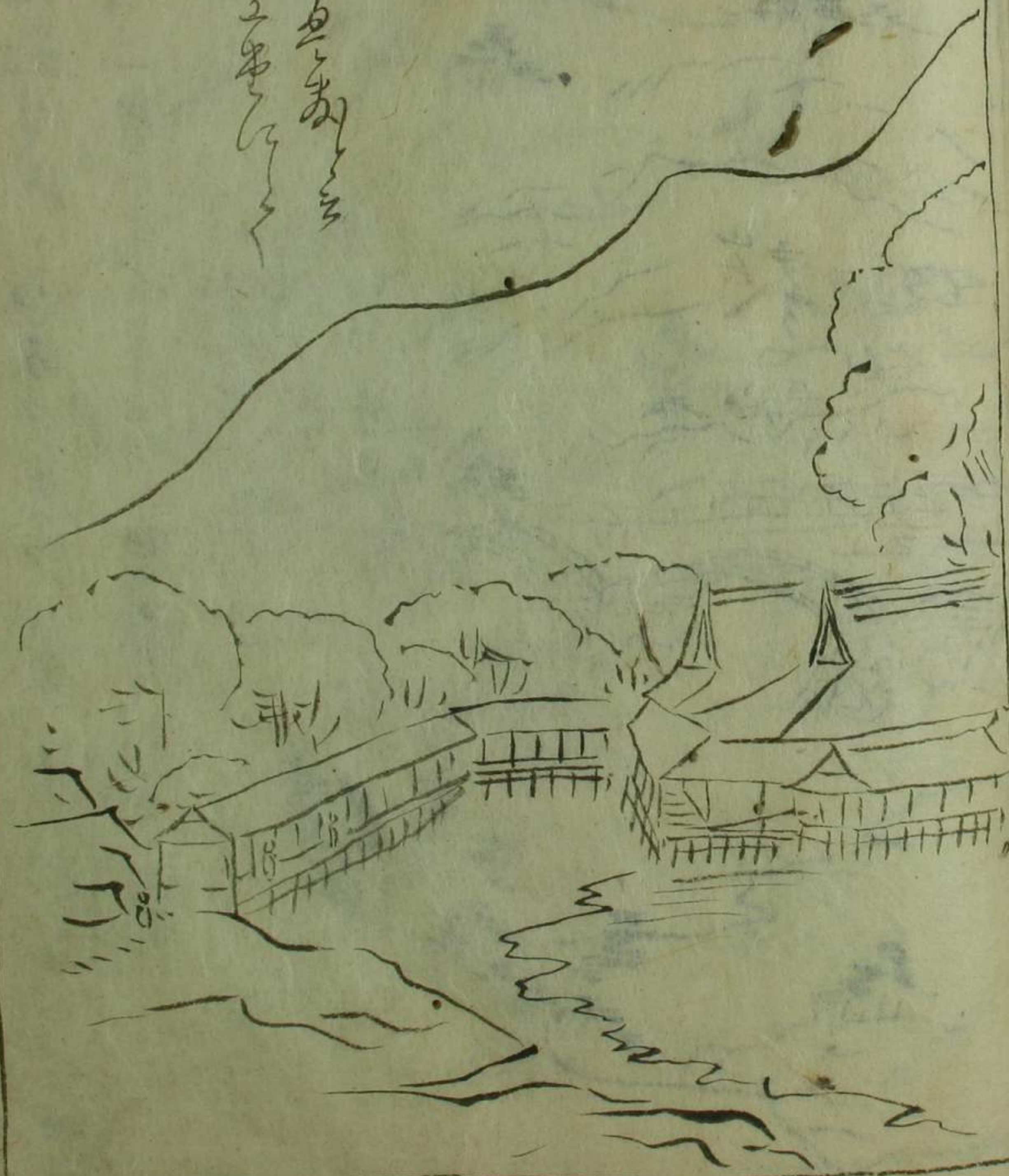
六十七尺地より好てあり。 壺。 形よりさう六尺人形り楕圓
 四角の壺あり。 壺の口徑少くとも一尺二寸如圓半寸あり素山あり赤色し
 千七あり。 壺の口徑ハ二十餘寸あり。

蘇州 巖瀆宮の圖

山の上に堂あり
一木のあり
石のあり
ゆるぎと



丸の方千とあり
堂あり
猿あり



此山を
 吉川陣を
 此山を
 山に
 寺あり
 吉川陣を
 此山を
 山に
 寺あり
 吉川陣を
 此山を
 山に
 寺あり

防州山石国
 錦帯橋



橋はるあり
 中三ツハ杭



岩物ありぬ物ありてはなる其岩物と云はれ
者忽大神を拜ね人なる物に大神の者なり
人にちりてはとて物に相とをきしとては物
貝玉種と云ふあり中に穴あり其穴より水と海に
神なりて出でて者に天と地とを知らず神の人なり
関西の地とて云ふと云ふ此にわけて持て海の人
と云ふれ時とて云ふと云ふ
山ありては海ありては山半ありては水晶石英
とて云ふと云ふと云ふに地ありては海ありては水底

石の如く生るるくくは地れ物なりとてはなる
乃ら物ありては物とては川とては地なり
ありては地なりとては地なりとては地なり
乃大度とては山とては山とては山とては山
とては山とては山とては山とては山とては山
其山ありては山とては山とては山とては山
とては山とては山とては山とては山とては山
乃所は地なりとては地なりとては地なり
大なりとては山とては山とては山とては山

田舎の地なり

犬
岩上松
乙
生
乙





犬戾
梅子山岩の洞
此乃岩石を
十石の大小
山に好む

犬戾

此の山は岩多し
谷の深き所あり



犬戾

此の山の
石は多し
岩多し
谷の深き所あり

山の
皴



九月廿七日、西名島と申す一山申に入まより海まで出たが
崎と申すあり西に萩浦此浦柱崎其外浦杉と申す
此山を登れば橋を渡る所し海宇のよりなるに此の天氣
池をまわると申すあり三月の如し清く天に霞のりあり
と申すあり舟をりて此浦を渡る所と申す此の浦に
あしに杉ありと申すありと申す渡る所日平に在り此浦に
うらやまありと申すあり秋に在り此浦に稀あり三月桃花の
以り相見れば此の浦に清く清くと申す此の浦に杉あり此
野原に在り此の浦のより移り此の浦の清あり此の浦に

まより申すありと申すあり大島に在り此の浦に海ありと申す
大島に在り此の浦に一里大島に在り此の浦に十里小島に在り
此の浦に杉ありと申すあり及此の浦に杉ありと申すあり
此の浦に杉ありと申すあり七甲のり此の浦に杉ありと申すあり
山より申すありと申すあり西に在り此の浦に杉ありと申すあり
此の浦に杉ありと申すあり此の浦に杉ありと申すあり
大島に在り此の浦に杉ありと申すあり此の浦に杉ありと申すあり
柳井津に在り此の浦に杉ありと申すあり此の浦に杉ありと申すあり
此の浦に杉ありと申すあり一里に在り此の浦に杉ありと申すあり
此の浦に杉ありと申すあり此の浦に杉ありと申すあり



波中子ありしより... 大里に
 大里一甲... 田の角
 少念八三... 此海の中子...
 三

安徳天皇の刀の角

七寸六分全

水牛の角

唐の

唐

唐

木

木

木

初らんしを述べらるる川のついでに

観を寺法華寺持多、以たあり社より十所福あり戒檀

院観を寺法華寺持多と一都府樓の改あり又安徳天皇に

殿の古治あり迄年甲午申と建神宮中より瓦二枚を置き

陸出りし生種行くと高は何程程のありと人の物種を

部府樓の瓦ありと一いふより七所ありて田の中中に中に

以りて穀ありと耕池池の部ありととと除るるくはぬのち

入田の中より四あり建あり四方あり右にと中江右相の敷

一旦り二と福ありと一おもむき(数)瓦数ありと江ありと

流あり裏布目ありと一市計持のまきと路あり

捨して取りてぬきのちを結る此瓦ありと古物あり

奥州多の石の瓦の如し一草穂ありありとよりのまきあり

ありけりありはまきありと一四方ありと一持留運

の持留多天祥天祥温泉所の上天お心の中福あり天お

此漆川ありとありと一ありと一ありと一ありと

流ありありと一ありと一ありと一ありと一ありと

ありと一ありと一ありと一ありと一ありと

ありと一ありと一ありと一ありと一ありと



大嘗會
天満宮境内の事



